

我が国のイノベーションシステムの強化に係る基本的考え方

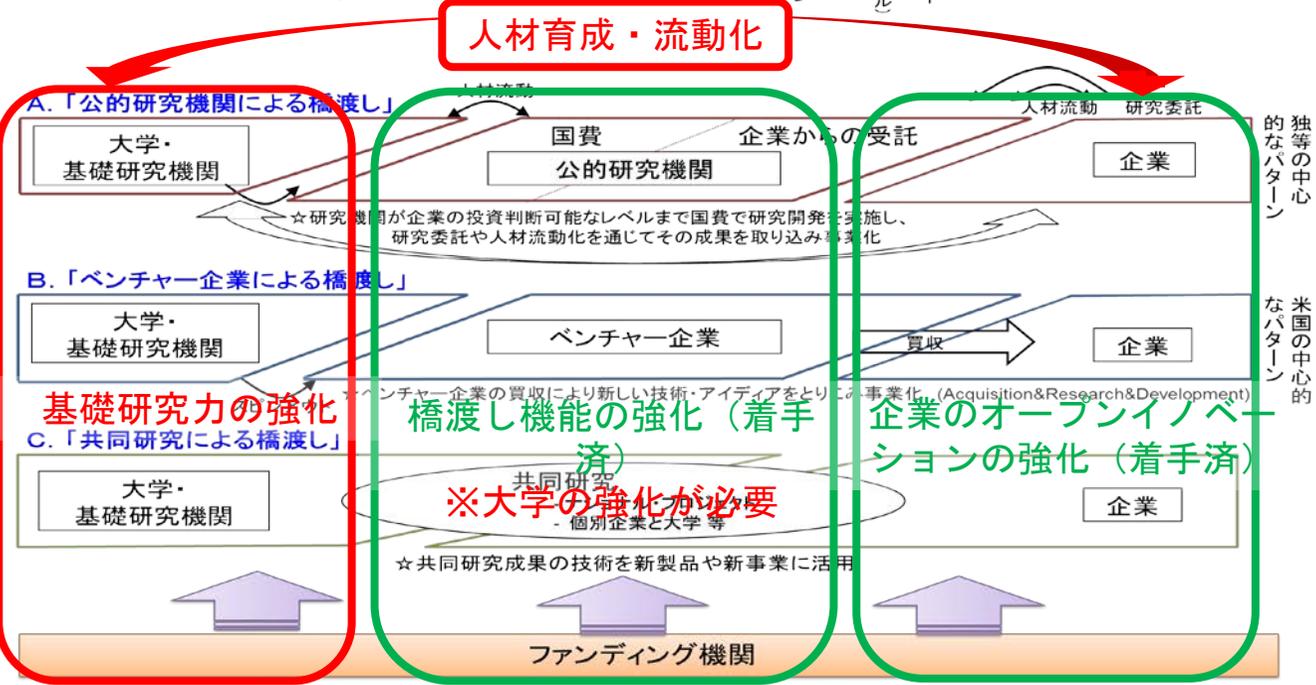
- イノベーションは、産、学、公的機関等多様な主体が連鎖し、様々な工程を経て実現。
- 各主体の役割を明らかにした上で、イノベーションを創出するシステムの構築に向け、事後評価可能な指標を設定して、実効性ある具体策に取り組むことが必要。

基礎研究		応用研究、開発			実証		事業化	
1	2	3	4	5	6	7	8	9
現象の発見 基本理論・ 科学的な	応用的な研究 定式化 原理現象の	技術コンセプト の確認(POC)	研究室レベル でのテスト	想定使用環境 でのテスト	実証・デモン スレーション (システムレベル)	トップユーザー テスト (システムレベル)	パイロット	大量生産

TRL (Technology Readiness Level) の整理

大学
・独創性の高い基礎研究の実施が最大の役割

基礎研究機関
・大規模・組織的研究等、大学では不十分な基礎研究に取り組む役割



企業

- ・研究開発成果の事業化の担い手
- ・事業化にあたってのリスクテイク
- ・オープンイノベーションの積極化
- ・中堅・中小・ベンチャーの活躍

独自の中心なパターン

米国の中心的なパターン

「橋渡し」を担う公的研究機関 (産総研等)

- ・企業ニーズを先取りし、事業化につながる研究を実施
- ・企業同士や産学のネットワーク化
- ・企業が利用できる研究開発拠点や共通基盤的施設の整備
- ・人材の流動化や育成への寄与

ベンチャー企業

- ・既存企業によるベンチャーの買収等によって「橋渡し」
- ・国の起業・成長支援も重要

ファンディング機関 (NEDO等)

- ・個別の産学連携では困難な、より革新的で複雑な研究開発のマネジメント
- ・リスクテイク、多様な主体のネットワーク化